

Work
Shop



デジタルメディア遊び
de アート

文化人間・情報学コース 修士1年

佐藤朝美 寺脇由紀



・ワークショップの概要





ワークショップの背景

< 背景 >

様々なメディアが存在する現代、デジタル社会のリテラシーを学ぶ必要性から学校教育でのカリキュラムの整備が急務である。しかし、調べ学習などにコンピュータを利用する等の展開は見られても、表現ツールとしてのメディア利用までには至っていない。そこで、現代のニーズに合ったより多様で深い学びを実現するために、NPO法人の活動やワークショップのイベントに期待が寄せられている。

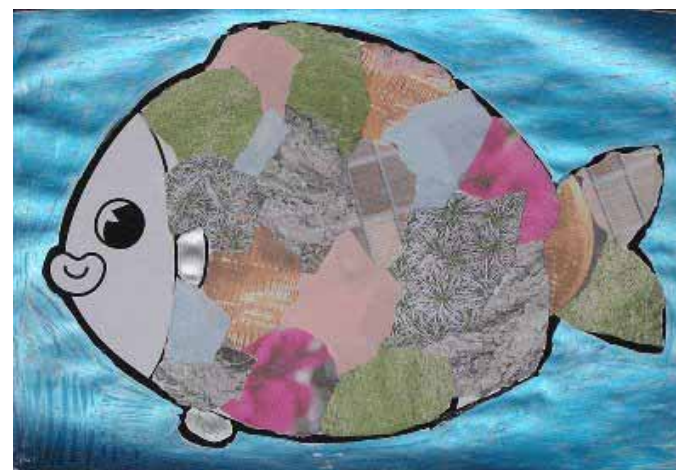


そこで、初期の段階・小学生を対象に表現ツールとしてのメディアに注目する機会となるワークショップを提案する。単体のメディア(デジタルカメラ)の特徴や機能や使い方を学び、それを別のメディアとの組み合わせるのではなく、デジタルカメラのアウトプット(写真)のテクスチャに注視することで、いままでおこなってきた造形活動の素材になり得、表現活動ができるという視点を養う。

ワークショップの目標



単体のメディアの特徴や機能や
使い方を学び、メディアから出力
された素材を使って表現活動が
できることを知る



ワークショップの内容



対象

- 小学6年生(とその兄弟姉妹)

日時・場所

- 2005年8月28日(日)10:00 ~ 17:00
- 情報学環アネックス

活動

- デジタルカメラを持って東大を探検しながら撮影
- 撮影した写真をもとに、契り絵で作品作り

評価

- 開始時、終了時のインタビュー
- ビデオ分析



ワークショップの進行表



ワークショップの流れ



導入



東大本郷キャンパスの紹介と現状説明を行う。メンバーを紹介しあう。

目的説明



三四郎池の危機的状況を説明し、「三四郎池を救うアイデアを考える」というミッションを告げる。

制作説明



東大キャンパスの写真を印刷し契り絵を作成するというプロセスと趣旨を把握してもらう。

撮影活動



赤門 総合図書館 三四郎池 安田講堂 情報学環アネックス の順で撮影。



発表



作品紹介。目的や利用した写真も説明する。お気に入りのテキストチャ写真も紹介。

制作活動



印刷した写真をもとに、契り絵を作成。

公開・印刷



撮影した写真をプロジェクターに投影し、撮影者と場所とモノの説明を行う。各自、お気に入りの写真を印刷する。

* 詳細はファイリング資料をご参照ください。



. 実践の様子



当日の参加者



学校名	人数	備考
学芸大学附属小金井小学校6年	男子 3人 女子 2人	
桐朋学園小学校6年	男子 2人	
公立小学校4年	女子 1人	兄弟姉妹
学芸大学附属小金井小学校1年	男子 1人 女子 2人	兄弟姉妹



6年9人、4年1人、1年3人 合計11名

実践のダイジェスト



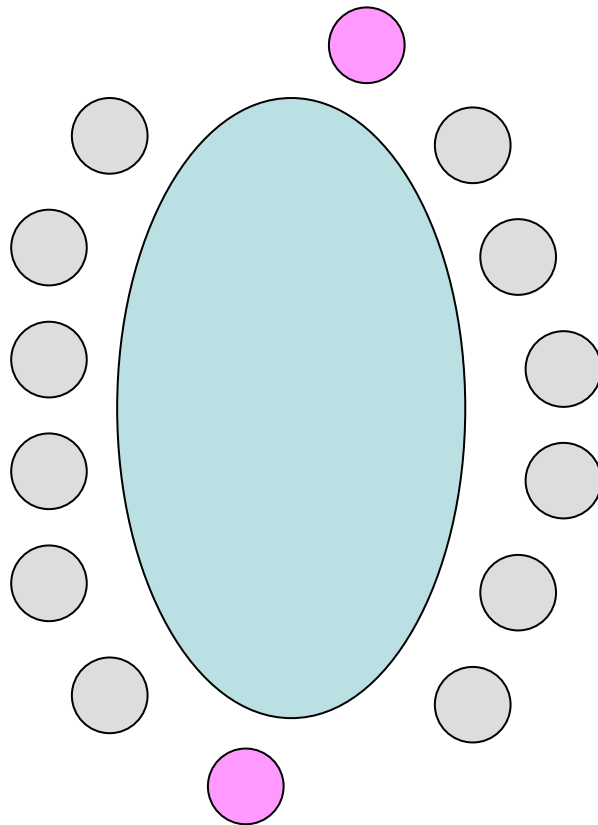
映像で紹介

活動のレイアウト

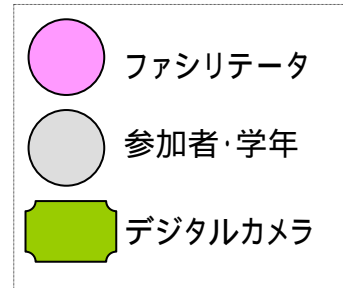
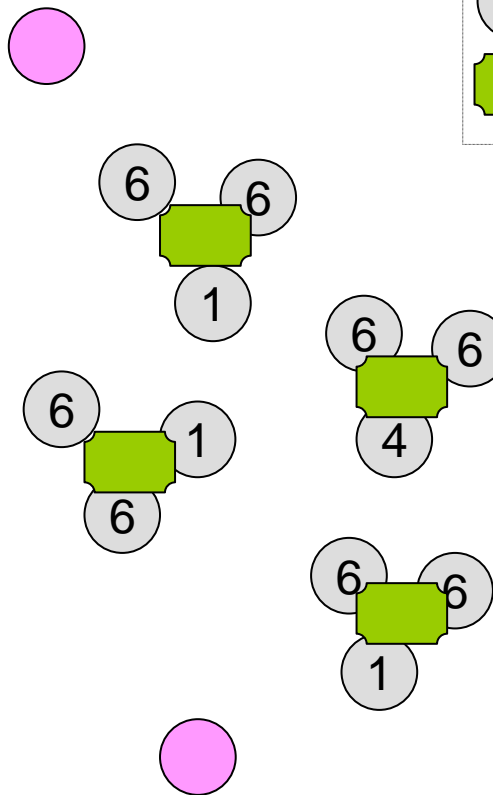
Work
Shop



導入時・制作活動時



撮影活動時



. ワークショップの評価



反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

導入時の掴みや楽しい雰囲気への創出などは、ファシリテータの力量が大変重要であることを痛感した。

- ワークショップの概要、テクスチャの説明など、説明の間に子どもが参加できるようなシナリオ作りをすることが、子どもの集中力持続につながることを実感した。

注意事項五箇条を皆で読み上げることで、緊張が解れた様子であったし、またデジタルカメラを丁寧に扱うことが出来た。

- 導入時の掴みや楽しい雰囲気への創出に苦労したが、注意事項五箇条を皆読み上げることで、緊張が解れデジタルカメラを丁寧に扱う自覚が生まれた。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

概要の説明が長すぎて、多少退屈している様子だった。

- > ワークショップの概要，テクスチャの説明と説明が立て続けだったので，多少集中力が切れた様子だった。

低学年にはワークショップの目標が分かり辛いようだった。
(対象は6年であった。)

- > 低学年には，デジタルカメラと造形物のコラージュという概念がわかりづらかった。

高学年は目標は理解したが、実作業では何を作るかアイデアは湧かない様子だった。

- > 高学年はデジタルカメラと造形物のコラージュに関して理解したが、何を作るかアイデアが湧かない子どももいた。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

カメラの台数の関係から3人グループでの撮影だったが、一人一台が良かったという要望も強かった。

- > 要望の反面、グループ分けにより、低学年の子はやり易いようであったし、走りながら撮るなど突飛な行動が低学年には見られ、高学年の子が触発されたようであった。

テクスチャーを発見しながら撮影することはとても楽しい様子であり、金色を撮影するというテーマを持つ子がいたり、取り方に工夫をしていく様子が見られた。

- > 撮影を行いながら、徐々にテクスチャーという概念を理解していった様子であった。

使用方法を教えていないにも関わらず、画像確認をするようになった。

- > デジタルカメラの良さでもある撮影直後の確認という作業を自然発生的に実行する子どもの潜在力を発見する機会になった。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

面白い写真が多々撮影されていた。

- 目的説明時の「テクスチャー説明」で意図が伝わったからではないかと考えられる。 *添付資料「テクスチャー」参照

タイマーを使ってグループで記念撮影をしたり、動画の撮影を行っているグループがあった。

- 教えてないデジタルカメラの使い方について、自発的な興味がわいたようだった。

友達の顔のアップ写真などこちらが想定していない素材の撮影が多く見られた。

- 想定外の挑戦は評価すべきだが、コンセプト実現への素材の有効活用という機転まで至らなかった。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

紙粘土にテクスチャーを貼るという方法を選択することになったが、紙粘土の作成の方に力が入ってしまった。

- > 低学年の場合、コラージュという概念が理解できないため、紙粘土の作成に活動の主眼が置かれたが、高学年とグループにした席の配置だったので、高学年の例を見てコラージュをいう概念を想像できたようだった。

声かけを数回行うことにより、テクスチャーの利用しながらの作成に移行していった。

- > 声かけを数回行うことにより、テクスチャーの利用がさらに増した。作業途中での声かけの必要性を感じた。

作業中の楽しい様子を見るとレイアウトもポイントの一つだったのでとは考えられる。

- > 低学年が高学年の作業を見てテクスチャーを理解したりなど、他人の作業が見え影響し合えるレイアウトにしたことによって、作業の目標理解や作業中の楽しい雰囲気を作り出すことに成功した。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

高学年の子どもは、自分の作品に対して自発的に語る事ができたが低学年の子どもに関しては、語りを引き出すような声かけが必要であった。

- > 子どもたちの話し(語り)を引き出す為には、ファシリテータの力量が重要であることを再認識した。*添付資料「作品」参照

子どもたち自身からの質問を受け付けるなど、発表の方法に検討の余地があった。

- > 発表途中で、ある子どもが発表している作品に対して、そのほか笑うなどの反応を示すことがあったので、その反応の部分を広げる形でさらに語りを引き出す余地があった。

メディア表現遊びの体験としては、全体を通して楽しみながら行うことが出来たように見受けられる。

- > デジタルカメラで表現活動を行った経験の無い子たちが、インタビュー項目「今後もデジタルカメラで色々撮影したいか、作品を作りたいか。」等の問いに肯定的に答える子が多かった。

反省点・気づいた点



導入

目的説明

撮影活動

公開/印刷

制作活動

発表

<ワークショップ終了後>

普段、カメラに撮られる側の子どもが自らカメラの撮影を楽しむ機会が増えた。(保護者談)

日常の中で、「これも素材になりそうだね。」との発言があり、テクスチャーへの意識が芽生えているようであった。
(保護者談)

開催後の話し合いやビデオ・写真等の振り返りにより、改めて本ワークショップの目的を再認識し、改善点等を考察することが出来た。

評価方法については幾度の検討を重ねてインタビューとビデオ分析を採用したが、その際の視点については未だ確信が持てない状況である。

評価：インタビュー



【ワークショップ開始時】

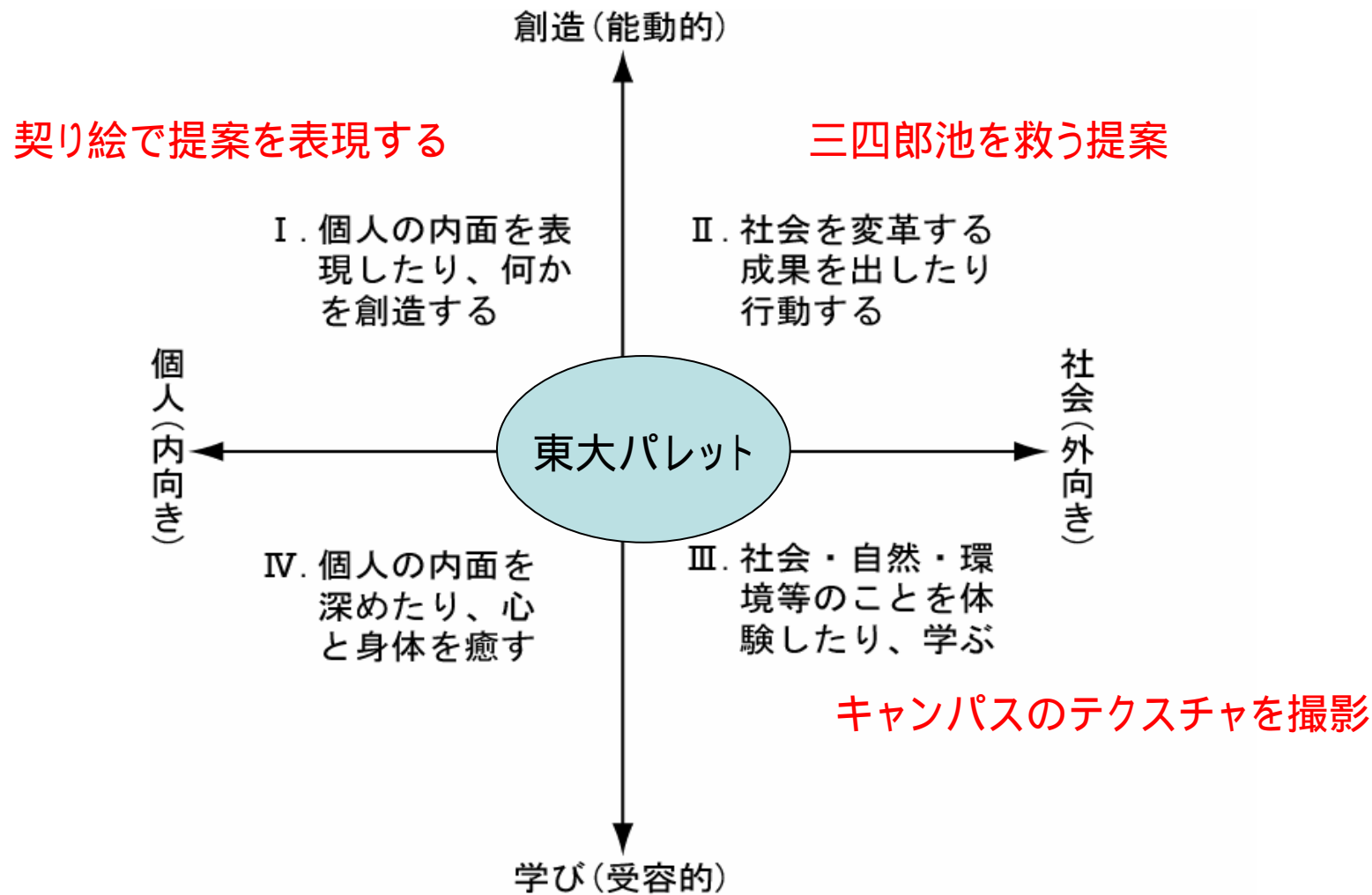
質 問	(人)
デジタルカメラを使ったことがありますか。	3
デジタルカメラで撮影した素材を使って何か作ったことはありますか。	0

【ワークショップ終了時】

質 問	(人)
デジタルカメラの撮影は楽しかったですか。	9
今後もデジタルカメラを使いたいと思いますか。	9
今後もテクスチャーを使って作品を作りたいと思いますか。	7
テクスチャー以外でもデジカメを使って作品を作りたいと思いますか。	4
どのような写真を撮りたいですか。 ex)夜景、お花、景色、動画	-



“東大ぱれっと”ワークショップの位置付け



「ワークショップ」中野民夫著 岩波新書



. 資料 制作物



(当日子ども達が制作したものです。)

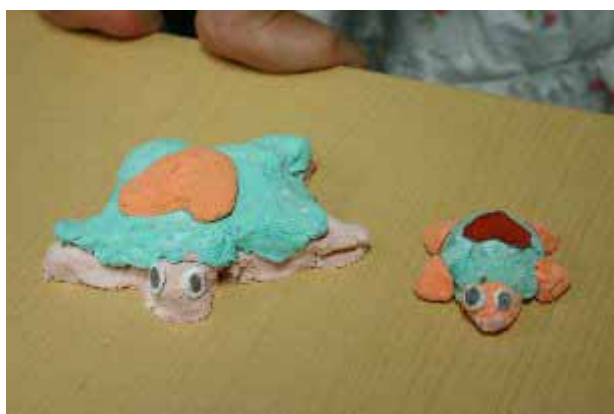
資料 制作物



資料 制作物



資料 制作物



Work
Shop



資料 テクスチャー

(当日子ども達が撮影したものです。)



. 資料 テクスチャー



. 資料 テクスチャー





END

